

第 18 回 服飾文化学会 夏期セミナーのご案内

【期日】 平成 29 年 8 月 8 日（火）～ 10 日（木）

【会場】

●富岡製糸場

〒370-2316 群馬県富岡市富岡 1151-1 Tel. 0274-67-0088

●大麻博物館

〒325-0303 栃木県那須郡那須町高久乙 1-5 Tel. 0287-62-8093

●真岡木綿会館

〒321-4305 栃木県真岡市荒町 2162-1 Tel. 0285-83-2560

●本場結城紬 奥順 資料館・つむぎの館

〒307-0001 茨城県結城市大字結城 12-2 Tel. 0296-33-3111

●後藤織物

〒376-0032 桐生市東 1-11-35 Tel. 0277-45-2406

●桐生織物協同組合・桐生織物記念館

〒376-0044 群馬県桐生市永楽町 5-1 Tel. 0277-43-2511

●小林当織物

〒376-0035 群馬県桐生市仲町 1 丁目 4-29 Tel. 0277-44-7135

●イツハラ産業

〒376-0013 群馬県桐生市広沢町 2 丁目 3033-2 Tel. 0277-52-8787

【宿泊】

●那須ミッドシティホテル（8 月 8～9 日）

〒329-3156 栃木県那須塩原市方京 1-1-10 Tel. 0287-67-1400

●ホテル パークイン桐生（8 月 9～10 日）

〒376-0021 群馬県桐生市巴町 2-2-3 Tel. 0277-22-8910

連絡先：夏期セミナー事務局 大妻女子大学 家政学部 被服学科
〒102-8657 東京都千代田区三番町 12 Tel. 03-5275-6029
幹事 柳原美紗子 委員 大網美代子 中川麻子

主催 服飾文化学会 事務局 東京家政大学

服飾文化学会 第18回（平成29年度）夏期セミナーのご案内

服飾文化学会会長 能澤 慧子
夏期セミナー幹事 柳原美紗子

平成29年度夏期セミナーを、平成29年8月8日（火）～10日（木）の2泊3日の日程で、北関東の群馬県富岡市と桐生市、栃木県那須町と真岡市、茨城県結城市にて開催いたします。

北関東の群馬県と栃木県は両毛地域とも呼ばれ、古来より織物の一大産地です。絹織物や麻織物、綿織物の伝統が現在も息づいています。そこで今夏はこれらの地域を巡り、産地の魅力ある企業の工場や職人の技などを見学し、繊維産業を取り巻く新しい動きや今後の方向などを考察していきます。

群馬県富岡市には言わずと知れた世界文化遺産の富岡製糸場があり、観光スポットとなっています。また桐生市は奈良時代から絹織物の産地として有名で、桐生織は京都・西陣の西陣織と並び称されてきました。その歴史を物語るように、市域には数多くの歴史的建造物、史跡などの文化財が残されています。2014年に開催された「織都桐生1300年」記念イベントも、記憶に新しいところです。

とはいえ着物離れや少子化、安価な外国製品の流入で、産地の環境は厳しさを増しています。こうした中、とくに桐生では伝統の上にあぐらをかかない変革で、新市場を開拓する傾向が顕著になっています。海外発信に取り組み、最先端のテクノロジーを駆使して生き残りを掛けた勝負に挑んでいる企業も訪問します。

栃木県には、那須町に大麻博物館があります。同県は大麻の一大産地でもあるのです。ここではこの植物がいかに関生活の中に根付いていたのか、「大麻＝麻」であることを解説していただきます。またかつて木綿の代名詞と言われた真岡木綿の伝統の技を継承する、真岡市の真岡木綿会館にも立ち寄ります。さらに日本の絹織物の原点を今に伝える布、本場結城紬の資料館も訪れます。

本セミナーでは伝統の職人芸から最新技術まで、そして和装から洋装、資材へと用途を広げ、新需要を生み出している北関東の繊維産業を直に見学出来るように企画しました。広い地域を効率よく回れるように、全日程でバスをチャーターしています。この機会が皆様方のご研究のさらなる発展の契機となることを願っております。

1日目は、JR高崎駅新幹線改札口前に集合し、バスガイドの出迎えで「富岡製糸場」へ向かいます。専従ガイドの案内で見学後、高速道路を走り「那須ミッドシティホテル」に到着。ホテル内レストランで懇親会を行います。

2日目は、バスで朝一番に「大麻博物館」を訪問。この後、益子で昼食。午後は「真岡木綿会館」、次に「本場結城紬 奥順 資料館・つむぎの館」を見学して、宿泊先の「ホテル パークイン桐生」へ。夕食は市内で各自自由にお楽しみください。

3日目も、バスで午前中「後藤織物」を視察し、「桐生織物協同組合・桐生織物記念館」を訪問。市内で昼食後、「小林当織物」と「イツハラ産業」を見学します。

東武線 新桐生駅及び JR 桐生駅で閉会・解散となります。

スケジュール

8月8日(火)

- 12:15 : 集合・受付 JR 高崎駅新幹線改札口前
(バスガイドが出迎え、車までご案内します)
- 12:30 : 出発(貸切バス利用—バスガイドあり)
- 13:30~14:45 : 「富岡製糸場」(群馬県富岡市 専従ガイドの案内)
- 17:30 : 「那須ミッドシティホテル」着
(JR 那須塩原駅前 シングルルーム・朝食付き)
- 18:30~20:30 : 懇親会 ホテル1F レストラン「オールヴォワール」

8月9日(水)

- 08:30 : ホテル出発(貸切バス利用)
- 09:30~10:30 : 「大麻博物館」(栃木県那須町)
- 12:30~13:15 : 昼食「益子焼窯元共販センター」メニューは各自自由に
- 13:30~14:30 : 「真岡木綿会館」(栃木県真岡市)
- 15:30~17:00 : 「本場結城紬 奥順 資料館・つむぎの館」(茨城県結城市)
- 18:45 : 「ホテル パークイン桐生」
(JR 桐生駅前 シングルルーム・朝食付き) 着
- フリータイム : 夕食は各自自由に

8月10日(木)

- 09:00 : ホテル出発(貸切バス利用)
- 09:30~10:30 : 「後藤織物」(群馬県桐生市東)
- 11:00~12:00 : 「桐生織物協同組合・桐生織物記念館」(桐生市永楽町)
- 12:15~13:15 : 昼食「割烹 一婦美」(桐生市仲町)
- 13:30~14:30 : 「小林当織物」(桐生市仲町)
- 15:00~16:00 : 「イズハラ産業」(桐生市広沢町)
- 16:30 : 閉会・解散 東武線 新桐生駅 さらに JR 両毛線桐生駅

見学先・訪問先のご案内

8月8日(火)

■富岡製糸場（群馬県富岡市）

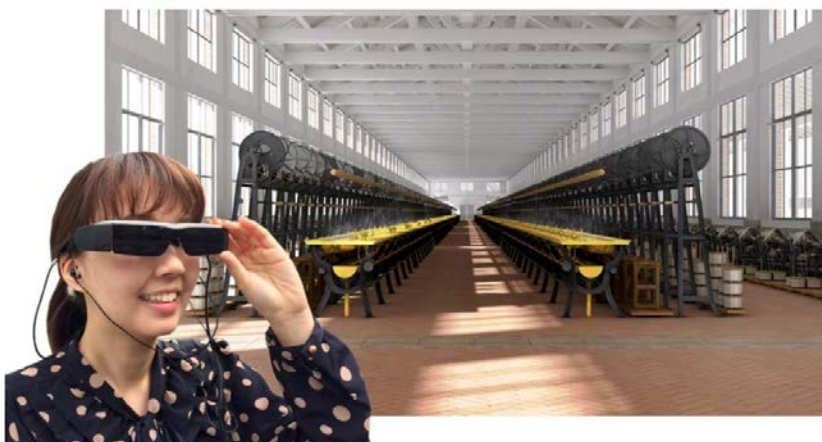
明治5年に建設された日本初の官営模範製糸場です。2014年に「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界文化遺産に登録されました。日本の近代の産業遺産が登録されたのはこれが初めてです。

明治維新後、政府は産業や科学技術の近代化を進め、そのための資金を集める方法として生糸の輸出に力を入れました。生糸の品質改善・生産向上と、技術指導者を育成するため、洋式の繰糸器械を備えた官営の模範工場をつくることを決め、富岡製糸場を建設したのです。

主要建物(国宝・世界文化遺産)は、ほぼ創業当初の状態で良好に保存されています。



見学にあたり、「CG映像ガイドツアー」を予約しています。これは今年4月1日から開始された新しいツアーです。参加者はスマートグラスを着用し、明治の創業時の富岡製糸場を再現したVR（仮想現実）画像を体験しながら、解説員の案内とともに場内を見学します。



■大麻博物館（栃木県那須町）

2001年に開館し、「大麻」に関する様々な情報を発信している私設博物館です。

違法な薬物として認識されることが多い大麻ですが、日本では古来より人々に親しまれ、繊維を衣服や縄・釣糸・漁網に、種を食料に、茎を建材に、葉や根を薬用にと幅広い用途で利用してきました。また神道の世界ではその繊維を清めの道具として用いるなど、日本の伝統・生活文化と密接な関わりを持つ農作物でした。しかし戦後、大麻取締法が施行されてイメージが悪化、1950年には国内に約25,000件あった大麻農家が、現在は約40件にまで減少しています。

栃木は、陶酔作用がないよう改良された品種の栽培が現在も続けられていて、国内生産の約90%を占める大麻の産地となっています。当地の大麻は、夏の暑さや冬の寒さを防ぐように日本で独自に進化した自然素材で、同博物館では大麻の文化を今一度見直してほしいと訴えています。

■益子焼窯元共販センター

益子焼の複合ショッピングギャラリーです。レストランや手打ち蕎麦の店がありますので、各自自由にランチをお楽しみください。

■「真岡木綿会館」（栃木県真岡市）

かつて江戸時代に「真岡」といえば、そのまま木綿の代名詞として通用した時期があったそうです。染上がりを際立たせる“晒し”の加工技術にも優れていて、丈夫で質の良い、絹のような肌ざわりの真岡木綿は絶大な人気を誇ったといえます。文化・文政・天保の頃には年間38万反を生産し、当時、江戸の木綿問屋はこぞって真岡木綿を求め、木綿仕入高の約8割が真岡木綿であったという記録があります。

しかし開国による輸入綿糸流入などで衰退し、戦後になるとその生産はほとんど途絶えてしまいました。もう一度技術の復興を図ろうと、昭和61年（1986年）「真岡木綿保存振興会」（当時）が設立され、機織り技術者養成講座を開設するなど、伝統を“今”に繋いでいます。

なお真岡木綿会館では、機織りの工程見学や、機織り・染色の体験も可能です。



■「本場結城紬 奥順 資料館・つむぎの館」（茨城県結城市）

本場結城紬は日本の絹織物の原点を今に伝える布です。真綿から手をつむいだ糸を手織りすることで生まれる風合いは、最高峰の絹織物として古来より多くの人々を魅了してきました。その製作工程は、世界に誇るべき日本の技として、ユネスコ無形文化遺産に登録されています。また「糸つむぎ・絹くり・地機織り」の三工程は日本の重要無形文化財に指定されています。

奥順は明治40年（1907年）の創業以来、結城紬の企画とデザイン及び販売流通を請け負う製造問屋として産地の発展に寄与し、2006年に資料館・つむぎの館を敷地内にオープン。結城紬の生産に携わってきた産地の資料を一堂に集めて保存し、その文化を伝えています。

8月10日(木)

■「後藤織物」(群馬県桐生市)

後藤織物は明治3年(1870)の創業で、初代後藤定吉は明治10年に揚柳縮緬を考案し、明治12年にはいち早く洋式染色技術の導入を図り、明治初期の桐生織物に大きな貢献を果たしたといえます。

主屋は明治前期に建築された後、大正14年に増築され、機業家の住居から事務所兼作業場への転換を物語る建造物です。工場は切妻造の工場に鋸屋根工場を増築したもので、桐生における機業の戦後復興を物語る施設となっています。

同社の建物は数が多く、その時期も明治前期、大正、昭和の戦前、戦後と多岐にわたり、主屋をはじめとする建物群の構成は、染色・撚糸・製織といった織物生産のシステムをそのまま現しています。桐生織の伝統の技を目の当たりにできる、またとない機会となるでしょう。

■「桐生織物協同組合・桐生織物記念館」(群馬県桐生市)

桐生織物記念館は昭和9年に桐生織物同業組合事務所として建設された建物です。桐生の織物業の隆盛を今に伝える建築物として、国の有形文化財「日本文化遺産」に登録されています。

一階が桐生織物販売場、二階が織物資料展示室で、日本の絹織物創成期の機材や生糸、布製品などが展示されています。

■割烹 一婦美

桐生市で70年の伝統ある老舗料亭です。和の伝統文化を楽しめる格調高いお店で、昼食をいただきます。

■「小林当織物」(群馬県桐生市)

昭和25年に和服地メーカーとして創業後、既製服の爆発的な普及に伴い婦人服地に転換しました。得意とするのはジャカード織機を駆使した複雑な柄を織り上げる技術です。平織の上に立体的なカットジャカードを施すなど、高級感のある服地で知られています。

資料室には、当時の職人の手業による突っ切り、マトラッセ(ふくれ織)、風通ジャカード、梨地、楊柳などの貴重な実物見本がずらりと並んでいます。

アーカイブを残すと同時に新素材開発にも積極的で、トウモロコシ由来のポリ乳酸繊維と天然繊維を組み合わせたエコ素材や和紙使いの軽量服地など、ヒット商品を多数打ち出しています。

■「イツハラ産業」(群馬県桐生市)

長年ジャガードの真髄を追い求め、他社に先駆け電子ジャガード技術を開発して完成度の高い高級ジャガード織物を提供しているメーカーです。中でも画期的なのが織物の段階でスカートの形状を形成するジャガード織物で、一点もののプレタスカートやドレスを創作しています。ベース布とフリル布を同時に織り上げる技術「フリル織」と、表裏異なるデザインを同時に織り上げる新技術「リバー織」、緯糸をループ状に隆起させる「ウエーブ織」は、各々特許を取得しています。

何千種類と生み出されるデザインは全てオリジナルで、世界に発信しています。このようなメーカーは世界広し、といえども他にはありません。まさに日本が誇るハイテク繊維企業です。

参加要項

■費用

参加費	学会員および非会員	17,000 円
	学生会員	10,000 円
懇親会費	学会員および非会員	6,000 円
	学生会員	4,000 円

宿泊費

8月8～9日	那須ミッドシティホテル	8,300 円	(シングルルーム、朝食付、サ・税込み)
8月9～10日	ホテル パークイン桐生	7,500 円	(シングルルーム、朝食付、サ・税込み)

昼食費 8月10日(木) 桐生 割烹 一婦美 2,160 円

入館料	8月8日(火)	富岡製糸場見学料+ガイド+CG映像機器	1,100 円
	8月9日(水)	本場結城紬資料館見学料	200 円
	8月10日(木)	後藤織物工場見学料	300 円

■参加申し込み

1. 申込方法

- ① 申込はがきの該当項目に○印をつけ必要事項をご記入の上、切手を貼付してご返送下さい。
- ② 申込はがきは1名につき1枚ご使用下さい。
- ③ 非会員の方は申込はがきを夏期セミナー事務局までご請求下さい。
- ④ 申込締切：平成29年6月23日(金)《必着》

※定員30名、応募多数の場合には先着順とさせていただきますことをご了承下さい。

2. 送金方法

- ① お申込を頂いた方に「払込取扱票」を送付いたします。「払込取扱票」の通信欄の該当項目に○印をつけ、合計金額をご記入の上ご送金下さい。
なお、夏期セミナー事務局からの申込受理の連絡は致しません。
費用の振込みを以って参加申込終了といたしますのでご了承下さい。
- ② 「払込取扱票」は1名につき1枚ご使用下さい
- ③ 払込締切：平成29年7月7日(金)

※7月10日以降のキャンセルはホテル代にキャンセル料金が発生いたしますのでご注意ください。
※納入された諸費用は返却致しませんのでご了承下さい。

参考（往路・復路）

■集合

8月8日（火）12:15 集合 JR 高崎駅新幹線改札口前

■往路アクセス（参考）

・【JR 新幹線 MAX とき 317 号・新潟行】 東京駅発（10:40）→ 高崎駅着（11:33）

・【JR 新幹線あさま 607 号・長野行】 東京駅発（11:04）→ 高崎駅着（12:01）

■解散

8月10日（木）16:30 東武桐生線新桐生駅 JR 両毛線桐生駅

■復路アクセス（参考）

<東武桐生線>

出発 新桐生 → 到着 浅草

りょうもう 40 号 17:10 → 18:55

りょうもう 44 号 18:09 → 19:55

りょうもう 48 号 19:10 → 20:55

<JR 線>

出発 JR 両毛線桐生 → 高崎(上越新幹線) → 到着 東京

17:06 → 17:56

18:22 → 19:12